

## 第6回 兵庫便教会 報告

2015年4月18日(土)、第6回の兵庫便教会を芦屋市立精道小学校にて開催しました。精道小学校での開催は、昨年の10月、今年の1月に続き3回目です。初参加2名を含め、13名の参加をいただきました。精道小学校はモクモク清掃という名で掃除に力を入れています。その成果から、校舎全体から清々しい雰囲気が漂っていました。

簡単な自己紹介と最近あった嬉しいことの紹介からスタートしました。新年度を迎え、新しい子どもたちとの出会いや新学年となり張り切る子どもたちの姿の中に先生たちの嬉しい思いが表れていました。

1Fの男女トイレに分かれて、トイレ掃除の実践をしました。最初の道具説明では、掃除道具を丁寧に扱うこと、その道具本来の力を引き出すことなどが留意点としてあげられました。掃除道具を子どもに見立てて考えて欲しいとの話もありました。途中で説明を加えながら、トイレ掃除を進めました。水で洗い流すことのできない床でしたが、タワシとスポンジを使って磨いていくやり方も教えていただきました。

交流会ではそれぞれの気づきを発表しました。

- ・掃除を終えたら前向きな気持ちになる
- ・いろいろな見方で見てみると汚れを発見できた。子どももいろんな視点で見ることが大切だと感じた。
- ・普段の掃除も子どもたちのできていない所を見るのではなく、良い所を見つける掃除にしたい。
- ・便利できれいな環境にも落とし穴があるのでないか。体を動かす掃除の必要性を感じる。
- ・単純なことは簡単ではない。掃除や挨拶など単純と思われていることが実は簡単なことではなく、奥深いものである。教師は単純なことはすぐにできると思いがちである。
- ・「掃除」が大切ではなく「掃除が大切だと思う心」が大切なのであり、教師はそういう心を持った子どもを育てたい。



このような感想が寄せられました。また、精道小学校の先生から掃除日記の紹介がありました。毎日、掃除の後に子ども書かせる6年生の掃除日記からは「ほこりとは毎日むきあっていこうと思います」「自分のちょっとしたことで学校がよりキレイになるんだと思うとうれしく、もっとキレイにしようと思えた」「少しの努力をつみ重ねていくのが大切な事と気づき、一つのことを考えをよせました。」といったコメントがありました。子どもたちの素直な思いに心が洗われました。

今回も西宮掃除に学ぶ会のご協力を受けての開催となりました。小冊子「トイレ掃除でこころ磨き―鍵山秀三郎さんからの訓え」もいただきました。

今回も多くの人に支えられ無事に終わることができました。本当にありがとうございました。

(文責：木田重果)